

式辞

厳しい猛暑が続いた今年の夏も過ぎ、一年で一番過ぎしやすい季節となりました。そのような佳き日に、本校育友会会長、佐藤真佐美様をはじめ、ご来賓並びに保護者の皆様のご臨席のもと、兵庫県立阪神昆陽高等学校の平成二十五年度後期入学式を挙行できますことを、心よりお礼申し上げます。

新入生の皆さん、入学おめでとうございませす。これから皆さんと一緒に、本校の歴史を作っていていけることを、とても楽しみにしております。また、保護者の皆様には、本日は誠にありがとうございます。心からお喜びを申し上げます。

さて、この阪神昆陽高等学校は、昨年四月に開校したばかりの、兵庫県で最も新しい県立高校であり、生徒の興味・関心や、多様な学習ニーズに応じて、主体的に学ぶことができる、多部制単位制高校です。

本校の大きな特色は、同じ敷地に同時開校した阪神昆陽特別支援学校の存在です。この学校は、生徒の社会的・職業的自立を支援するため、職業教育に重点を置く、高等部の特別支援学校です。

両校は、同一敷地にあるというメリットを生かして、交流及び共同学習を行なっています。具体的には、音楽や美術、情報、体育などの授業を、両校生徒が一緒に学んだり、体

育祭や文化祭などの学校行事を、合同で実施しています。これは、きわめて先進的な取り組みであるとして、兵庫県のみならず、全国的にも注目を集めています。このように、阪神昆陽高等学校は大変特色のある学校であり、皆さんは誇りと自信を持って、学んでほしいと思います。

ここで、入学に際して、三つのことを皆さんに要望したいと思います。

一つ目は、校訓「日常実践」についてです。「日常実践」という校訓には、「挨拶する、美化や整頓に努める、約束や時間を守るなど、生き方の基本ともいえるべきマナーやルールを、日常生活の中で常に実践していくことで、人間的な成長を目指す」という意味を込めています。

現代社会は、様々な課題に満ちています。この厳しい社会を生き抜いていくためには、まず自分自身が努力して、人間としての力を高めなければなりません。ではどうすればよいか。それはひたすら実践することです。高校時代という貴重な時期に、自ら目標を定め、「日常実践」に取り組むことで、人間的な成長を実現してほしいと思います。

二つ目は、「絆」ということです。一昨年三月十一日に発生した東日本大震災は、ほぼ二万人に及ぶ死者、行方不明者が出るという大災害でした。この大震災により、私たちは、「絆」、つまり人と人とのつながりが、如何に大切かを、気づかされました。

先ほどお話ししたように、本校の大きな特色は、阪神昆陽特別支援学校の生徒と、授業

や学校行事、部活動などを一緒に取り組むことで、共に助け合って生きていくことを、実践的に学ぶということだと思います。これは、人と人との「絆」を、学校生活の中で育んでいくものといえましょう。どうか皆さん、生徒同士が思いやりを持って接していく中で、お互いの「絆」を深めていってください。

三つ目は、「阪神昆陽高等学校と阪神昆陽特別支援学校はひとつ」ということです。両校一体を象徴するものとして、校章、校歌、校訓や標準服などを同一にしています。校長も別々でなく、私が兼ねることになりました。

両校の職員は、皆さんに対して、分け隔てなく接してくれます。どうか皆さんも、「阪神昆陽はひとつ」という意識を持ち、学校生活を送ってほしいと思います。

最後になりましたが、ご来賓・保護者の皆様から、本校にいただいたお礼申し上げます。ご支援に對しまして、厚くお礼申し上げますとともに、今後とも変わらぬご協力、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。式辞といたします。

平成二十五年十月一日

兵庫県立阪神昆陽高等学校長

尾崎文雄